

～児童や職員が、「新聞」を身近に感じ、 学習の中で活用させていくための手立てや工夫について～

尚学館小学校 堀田由美子

□ NIEへの取り組み

本校には令和5年の9月1日から各新聞が届くことになり、その前に、すでに年間カリキュラムはできている状態の中での取り組みになるので、全く新しいことを計画・実施するのではなく、カリキュラムはそのままで、授業やさまざまな活動の中で、「新聞」を活用し効果を上げる場面にはどんなものがあるのかを職員全員で話し合った。

その結果、低学年から、「新聞の中から習った漢字を探して、印をつけよう」や「新聞から『大きな数』をさがそう」、「新聞をまるめたりちぎったりして創作活動をしてはどうか」、中学年からは、「4コマまんがにせりふを書き入れよう」や「自分の好きな記事を切り取ってその感想を書こう」、高学年では、「社説を視写しよう」「記事の感想を書こう」…などの案が出た。

この時点では案が出ただけで、実際に2学期(9月)から新聞が届いてから、「新聞にじかに触れさせることから試みよう」ということになった。さらに、後援会(PTA)から「新聞ラック」を寄贈していただき、職員室の入り口に置いて活用させていただくことにした。

□ 活動の実際

<1年 図画工作科 「つなげてつなげて」

1 (「新聞紙」を使った)授業のねらい

児童のこれまでの創作活動の様子を見ていると、平面的でこじんまりとした小さな作品になりがちだった。そこで、腕全体・体全体を使ってのびのびと創作活動ができるように破ったりつなげたりねじったり…と、いろいろな使い方ができる「新聞紙」を材料に選んだ。



2 授業の流れ

過程	学習活動	教師の支援・工夫
導入	1 「新聞紙を使って町をつくろう」という活動の内容を知り、町にはどんなものがあるかを話し合う。	○新聞紙を十分に準備する。
展開	2 新聞紙で町をつくる。 ① 新聞紙を破ったりつなげたりして「道」をつくる。 ② 町にあるものを考えて自由につくる(グループ活動)。	○机を隅に寄せ、教室全体で広く使えるようにする。 ○できるだけ「テープやのり」などは使わず「つなげる工夫」をさせる。
終末	3 新聞紙でつくった町でみんなであそび、感想を話し合う。 4 「ほうき」で掃く練習をしながら、後片付けをする。	○児童・教師が一緒に遊びながら、作品の良さや工夫を話し合ったり感じあつたりさせる。

3 授業の振り返り

児童は初め、どのようにしたらいいのか戸惑っている様子だった。しかし、一人が新聞を広げてつなぎ始めそれに対して、「いいね、道ができたね。」と声をかけると、みんなちぎったり折ったりして道を作り始めた。ある程度道ができると、トンネルを作ったり「川みたいだ」と言って、川にいる魚を作ったりする子もでてきたので、その都度、「トンネルをくぐってみたいね。」、「川には他に何があるかな。」などと声かけしながら、活動が広がるようにした。作る途中で思うようにできない場面があったときは、友達同士で(グループ内で)話し合ったりいくつかの方法を試したりする様子も見られた。楽しく自由に活動しながらも、じっくり考えたり話し合ったりする練習ができたと思う。

活動の最後には、ほうきで掃く練習をしながら、床に散らばった新聞紙を片づけた。目に見える紙くずをほうきで掃くことで、床のごみをどのようにして集め掃いていけばいいのか、理解できたようだった。

<2年 生活科「自分のせい長をまとめよう」>

「これまでの私、これからの私」のタイトルで
自分新聞を作りました



< 5年 国語科「興味のある新聞記事を探して、その感想を書こう」>

1 授業のねらい

テレビやインターネットに囲まれた今どきの小学生(特に高学年)にとって、「新聞」はどのように映っているのかを知り、その結果をみて今後の新聞を使った授業の参考にしたいと考えた。

2 授業の流れ

過程	授業の流れ	教師の支援・工夫
導入	1 「新聞」について話し合う。 ① 「新聞」のイメージ ② 「新聞」が身近にあるか 他	○無記名のアンケート用紙を準備して、自由に書けるようにする。
展開	2 本日の活動について話し合う。 ① 新聞の中から興味のある記事を探し出す。 ② 探し出した記事についての意見や感想を自由に記述する(下記参照)。 ③ 記述した作文を発表し合う。	○「自分の意見が書けるか・感想が書けるか」を基準に探すようにアドバイスする。 ○読めない漢字は読み方を教え、意味は辞書で調べさせる。
終末	3 新聞を使って、次はどんな活動がしたいか話し合う。 4 今日の授業の感想を書く。	○自由に発表させる。

△記事についての意見や感想△

私は、「家族の日常破つた空襲」と書いてある記事に目がとまった。

その記事は、ウクライナに一発のミサイルを撃ち込まれた事件だった。八歳だったバラバニク君は、平凡な朝にお父さんと買い物に行っていた。午前九時五十八分頃、自宅に戻ると空襲警報が鳴った。その空襲がバラバニクくんの命を奪つた。私は、一発の空襲で何千人もの無実の人々を殺すなんて、なぜ戦争を起こすのか、果然とした。戦争のせいで人々が泣いたり悲しんだりしている。家族がバラバラになつて、街が破壊されている…。(後略)

*

「十九歳村瀬『トップ居続ける』 新聞にこんな記事があつた。

二〇一二年北京五輪スノーボード女子ビッグエア銅メダルの村瀬心穂選手の記事だ。村瀬選手は、ワールドカップで二勝を挙げるなど充実したシーズンを送る五輪メダリストだ。そのような好成績を残している村瀬選手もまだ満足はしていないらしい。目指しているのは、男子選手のような力強い「男前のすべり」だそうだ。自分だったら五輪でメダルを取つたらすぐに満足しているだろうけど、それを考えると村瀬選手はすごいと思う…。(後略)

3 「5年生18人のアンケートの結果」と授業の振り返り

① 家で新聞を購読していますか。

購読している78% 購読していない22%

② 「新聞」についてどんなイメージをもっていますか。

いろいろなニュースが載っている・ニュースがたくさん載っている…7人
おじいさん・おばあさんが読んでいる…3人 サラリーマンの人が電車で読んでいる…2人
ビッグニュースが一目で見られる…1人
画像を使わずに文字や写真を使っている…2人
窓ふきや習字の時などにも使えるとても便利なもの…1人
文字がたくさんあって読みにくく難しい…1人
最近は戦争の記事が多い…1人

③ どんなニュースに興味がありますか。

スポーツ…11人 地震…3人 戦争・テロ…3人 特にない…1人

④ 授業の振り返り

授業の最後に、「今日の学習の感想」の時間をとった結果、下のような回答を寄せてくれた

新聞記事をあれこれ探すのが楽しかった。また書きたいです…4人
記事を探しながら他の記事を読むのが楽しかったです…4人
分からぬ漢字や言葉を覚えるので、新聞を読んで良かったです…2人
自分の好きな記事についての感想を書くのは楽しかったです…2人
じっくりと新聞を読んだことがなかったけど読んでみたらおもしろかったです。
「こんなニュースが知りたい」と思っていたのが見つからず、とても大変だった。
新聞はテレビに出ない情報が書かれていることが分かりました。
最初予想していたよりも楽しくてびっくりしました。またやりたいです。
新聞の「感想」は「要約」よりも難しかったけど、楽しかったです。
新聞には、インターネットにはない記事もあり、とても大切な存在だということが分かった。

回答からも分かるように、児童は新聞を手に取り、(興味のある)記事を探すことに喜びを見出していた。記事の善し悪しを言ったり、「感想文」の字数を制限したりせず、自由に書かせたことも良かったと思う。「新聞を使った授業や活動はおもしろい、またやりたい」という児童の気持ちとともに、さらに内容を工夫しながら授業を深めていきたい。

Ⅲ 繼続校(2年目)に向けての活動について

令和6年度(継続校)としての取り組みについて、以下のことを全職員で話し合った。

○「NIE の実践」をカリキュラムの中に入れて、計画的に活動する。

○学期ごとに、各学年から「実践記録」を報告しあって、相互理解を図る。